

# 新名誉会員の紹介

伏見 正則 氏

昭和14年10月生れ(工学博士)

本学会前会長伏見正則氏に対し、名誉会員の資格を授与することになりましたので、ここにそのお祝の意味をこめ、その功績を記させていただきます。

先生は東京大学より工学博士の学位を受けられた後、埼玉大学で教鞭をとられ、この間コーネル大学に客員研究員として滞在され、研鑽を積まれました。

1974年に東大に戻られたのち、教育・研究でのご活躍は枚挙にいとまがありませんが、先生のご業績としてまず挙げるべきは、擬似乱数の生成と検定や、準乱数の研究に関することでありましょう。当時あまり性質のよく解明されていなかったM系列乱数を研究され、これを長周期で高精度である、きわめて重要な擬似乱数生成法へと発展させられました。ご研究の成果は、SIAM J. Comput., Math. Comp., CACMといった学術誌に掲載され、またご著書である「乱数」(東京大学出版会, 1989)、「確率的方法とシミュレーション」(岩波書店, 1994)にまとめられる一方、乱数に関する規格でありますJIS Z 9031の2001年改正のとりまとめにもご尽力なさいました。また東京大学での講義を基に執筆なさった「確率と確率過程」は、優れた教科書として定評のあるものでした。

東大退官後は、南山大学の数理情報学部の立ち上げに協力なさり、特に「都市のOR」についてオープン・リサーチセンター事業や、ワークショップなどを通じて若手OR研究者の育成に心をくだかれました。

OR学会関連では、下記のとおり多方面でご尽力いただきました。なかでも1994年のAPORS(福岡)では諸事全般お引き受けいただき、その後も特に中国OR学会とは長く深い交流を続けられ、同学会のZhang前会長とともにCo-ChairとしてISORAを1995年より組織して、多くの研究者が参加する国際会議へと育てられました。

日本OR学会が、先生のように深い学識と高い見識に合わせ、温かい人間性をもたれた方に支えられてきましたことは、まことに幸いでありました。今後も大所高所から御指導賜りたくお願いする次第です。



## 略 歴

- 昭和43年 東京大学大学院工学系研究科応用物理学  
専門課程博士課程修了
- 同 年 埼玉大学教養学部専任講師
- 昭和45年 同助教授
- 昭和49年 東京大学工学部助教授
- 昭和61年 同教授
- 平成7年 同大学大学院工学系研究科教授
- 平成12年 南山大学数理情報学部教授
- 平成16年 同大学院数理情報研究科長
- 平成19年 同大学数理情報研究センター長  
現在東京大学名誉教授

## OR学会関係

- フェロー 平成4年度より
- 第1回業績賞 平成12年度
- IAOR委員 昭和45年度, 昭和49~53年度
- 研究普及委員 昭和50・51年度
- 国際委員 昭和62年度~平成8年度
- 国際理事 昭和60・61年度
- 編集理事 昭和63年度・平成元年度
- 表彰委員 昭和63年度・平成元年度, 平成5・6  
年度
- 評議員 平成2・3年度, 平成6~13年度
- 無任所理事 平成4・5年度
- 副会長 平成7・8年度
- 代議員 平成14~17年度
- OR事典編集委員 平成17~19年度
- 会長 平成20・21年度